



西区を豊かに

2022年
12月18日発行
第40号

発行者 新潟市西区自治協議会 会長 大谷 一男
事務局 〒950-2097新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650
メール: chiiki.w@city.niigata.lg.jp



西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟すいか、赤塚大根、くろさき茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽をのせました。

アートがてんこもりっ！になった2日間 西区アートフェスティバル



11月5日、6日に西区アートフェスティバルを開催しました。10回目を迎えた今回は節目にふさわしくアートがてんこもりで、予想以上の盛り上がりを見せ、2日間で合計607人が来場しました。今号では、展示者、企画側の声をお届けします。

おん×てっく 音と光が融合した不思議な空間

新潟大学工学部人間支援感性科学プログラム 齊藤亜間さん



作品について説明する
齊藤さん

私の研究(創作)の集大成を地域の皆さまにご覧いただきたいと思い、展示しました。

学生による演奏の音と光のコラボレーションや、実際にピアノに触れて、音と光の連動を体験するコーナーなどで子どもから大人まで楽しんでいただけたなら、これ以上にうれしいことはありません。

とてもすてきな時間を過ごすことができ、本当に良かったです。貴重な機会をありがとうございました。



音色に合わせてさまざまな光で反応する齊藤さんの作品

3年ぶりに対面で開催 臨場感があって良かったです

部会長 田中米三



コロナ禍により、対面で開催する音楽・芸能団体発表は、第8回はオンライン開催、第9回は中止でした。第10回を迎えた今回は無事に対面で開催でき、大変うれしく思います。出演者の息遣いも感じられ、改めて対面開催は良いものと感じました。また、新潟大学と連携した「おん×てっく」や小学生から大人までの作品が展示されたアート展示部門も多くの人たちに来場していただき、この2日間は西区のアートが“てんこもりっ！”でした。今後も西区アートフェスティバルを盛り上げていきたいと思ひます。

第2部会 「支え合いの大切さ」どのように広める？

10月29日、「支え合いの大切さ」をより多くの人に知ってもらう方法を検討するために、民生委員や学生など、さまざまな立場の人たちと意見交換するワークショップを実施しました。

さまざまな立場での意見交換 新たな発見！

ワークショップでは、西区で多くの人実践できる支え合いについて意見交換し、各グループで1つの提案をまとめました。参加者は話し合いの中から、「支え合いに関する新たな発見」を見つけました。今後、多くの人に支え合いの大切さを知ってもらうために、この提案を踏まえて実践できる方法を検討していきます。



多くの人に知ってもらうための提案を紹介します

毎月5がつく日は【ご(5)あいさつ】感謝デー

まずは「ご(5)あいさつ」からと、あいさつを頑張る日をスーパーの特売日のように設定。声をかけ合える関係をつくり、そこから支え合いの大切さを知ってもらう方法です。

「困っています」「お助けできます」カード

恥ずかしくて声をかけられない、頼り方が分からない人向けに、カードを作成。意思表示をすることでお互い歩み寄りやすくなり、自然と支え合いにつながりそうです。

第1部会 環境美化パートナーを紹介

ごみのないきれいな西区を目指すため、環境美化活動に取り組む団体を募集しました。今号では、応募いただいたパートナー団体を紹介します。

有限会社 アルプスオート

毎週月曜の営業前に、新幹線側道にある会社周辺のごみ拾い活動をしています。お客さまや地域住民の皆さまが少しでも気持ち良く過ごしていただけるよう、社員と協力して取り組んでいます。



新幹線下は人目に付かない場所
毎週ごみ拾いをしてもなくなるそうぞす

「誰がごみ拾いするの？自分たちでやろう！」と、約10年前からごみ拾い活動をしています。みんなできれいなまちを目指しましょう。



代表取締役
照井茂行さん

一般財団法人

信越郵便局長協会 西蒲北部会



コロナ禍で休止していたボランティア活動を再開するにあたり、応募しました。10月1日に行った青山海岸海水浴場のごみ拾いでは、久しぶりの活動でみんな笑顔。澄み渡る青空のもと、海岸も自分の心もクリーンになりました。

次期「西区区ビジョンまちづくり計画」策定に係るアンケート結果がまとまりました

計画の策定に向けて幅広い区民の意見を聞くために、アンケートを実施しました。これは、自治協議会が区役所と意見交換する上で、区民の考えを把握するために行ったもので、972人の回答をいただきました。結果は区ホームページ(右の二次元コード)に掲載しています。ぜひ、ご覧ください。





創立150周年を迎える 西区内の小学校 思い出いっぱい！

パート 2

大野小学校は次号に
掲載予定です

明治5年(1872年)の学制頒布により、西区内では、明治5年に赤塚小学校、大野小学校が、翌6年には、新通小学校、内野小学校、笠木小学校が開校しました。今号では、笠木小学校と新通小学校の歴史と卒業生の思い出を紹介しします。

自然の恵みとともに

笠木小学校

明治6年、西蒲原郡公立笠木小学校として開校。開校当時は願正寺の境内を、しばらくして地元名士の屋敷の一部を間借りしていました。学区は笠木、曾和、田潟、槇尾、高山、仲才、新田の7つ。新川と西川に挟まれた広い田園地帯であり、それが教育活動にも生かされています。



昭和40年代の田植え体験

その代表的な活動は学校田で行われる田植え体験。今年、3年ぶりに全校生徒で行いました。また、畑ではサツマイモと大根を隔年で育てています。同校は全校生徒27人で市内小学校の中で一番児童数が少なく、小規模校だからこそ、大人や地域の目が行き届くそうです。児童一人一人の役割は大きく、助け合いながら学習を進め、力を伸ばせる環境が強み。自然の恵みを実感し、食料の大切さを学びに取り入れています。

11月19日の150周年お祝いの会では児童、保護者、地域住民、新潟大学生と共に造形活動でお祝いしました。他にもさまざまな人たちが「笠木っ子応援隊」として同校を盛り上げています。(取材:杉原英文)



お祝い会での造形活動



記念パネルと児童たち

写真提供: 笠木小学校

笠木小学校卒業生の思い出話

- マラソン大会で体育館の黒板に名前を残すために頑張った！ 20代女性
- 木造校舎での学校生活。思い出すと懐かしいなあー。 50代男性
- 授業の始業や終業は、用務員さんが鳴らす鐘の音が合図でした。 70代女性
- グラウンドで遊んだ後、足洗い場で足を洗って、男女別々の玄関から運動場へ入ったよ。 90代女性

児童数が増え、分離を繰り返した学校

新通小学校



西川のほとりにあった旧校舎

明治6年、民家を借りて児童44人、先生1人で開校。当時は読み書きやそろばんを習うといった寺子屋式の教育でした。同28年、児童数が増え、村の人たちがお金を出し合って西川のほとりに校舎を建てました。その後、昭和44年に現在の場所に今の校舎が完成しました。

100周年を迎えた昭和47年から児童の増加により、プレハブ校舎で対応していましたが、教室不足の解消にはいたらず、分離を繰り返してきました。昭和48年に五十嵐小学校、同50年に坂井輪小学校、同53年に坂井東小学校が分離し、令和2年には新通つばさ小学校が分離しました。

今回、150周年記念として、児童、PTA、学校、地域住民が一体となってさまざまな事業に取り組んでいます。その一つとして、創立記念のスローガン「新通150 伝統のバトンを これまでもこれからも」を児童のアイディアを基に決めて、横断幕を校内外に掲げています。また、児童が今まで以上に安心して活動できるよう、中庭を改修しました。児童が「新通なかよし広場」と名前を付け、笑顔で活動しています。(取材:菊池三男)



創立記念スローガンの横断幕



新通なかよし広場

写真提供: 新通小学校

新通小学校卒業生の思い出話

- 西川のほとりにあった校舎で学びました。当時は給食がなく、家に戻って昼食を食べていました。中学校は弁当だったので卒業が近くなると中学校で食べる弁当を心待ちにしていたことが思い出されます。 70代男性
- 家が忙しかったので学校には1時間行き、あとは、早退して田畑の手伝いをしていました。それでも学校には6年間、毎日通っていたので皆勤賞でした。 90代女性

知っとなっとな街の夕ネ

にぎやかに 新川音楽祭

音楽は心をつなぐ



11月12日(土)、内野まちづくりセンターで内野・五十嵐まちづくり協議会主催の「第4回新川音楽祭」が開催されました。出演は小学生、高校生、社会人のプラスバンド、民謡や踊りの同好会、ギターサークル、うたごえの会、越後ごぜ唄、樽砵(和太鼓)、盆踊りの会など14団体と多彩。来場者、出演者は450人に達しました。主催者は「内野は202年前の新川開削と共に生まれたまち。音楽祭を通じて子どもたちに歴史を伝え、にぎわいのあるまちにしてゆきたい」と語っていました。(取材:古俣慎吾)

とっておきの私一枚

タイトル 投稿者
天使の梯子 はしご ゆりかこい

一言コメント

車内から偶然撮った写真があまりにきれいだったので子どもたちに送った。横浜にいる娘から日本海の写真を毎日送って欲しいと返信があった。



募集 しています

広報紙や自治協議会活動についてのご意見を募集しています
住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙表面の「事務局」あてに郵送または電子メールにて送付ください。

とっておきの私一枚

あなたの「自慢の写真」(家族・風景・イベント・ペットなど)に住所、氏名(氏名必須、ペンネームがあればペンネーム掲載)、連絡先、写真タイトル、一言コメントを添えてご応募ください(電子メール可)。

- ◆採用者には千円の図書カードを贈呈。◆応募写真は返却しません。
- ◆締め切り1月末日(3月19日号掲載予定)。
- ◆送付先/ 広報紙表面の「事務局」あて



パソコン・スマートフォンでも
ご覧になれます!
Web版「西区を豊かに」